

## 本宮築堤完成記念碑

本市を流れる阿武隈川は沿川に豊かな恵みをもたらし、流れは癒しの空間を与えてきた。しかしながら川は時として牙をむき、本市は幾度もの大水害に見舞われてきた。平成の大改修と名付けられた河川改修後の平成十四年七月、再び豪雨洪水に見舞われたことから翌年八月、住民の総意として阿武隈川本築堤早期実現期成同盟会を設立し、毎年国や県に対し堤防の早期完成に向けた積極的な要望活動を展開した。

平成十九年、阿武隈川本宮左岸地区まちづくり懇談会が設置され、地域の特性にあった治水対策の検討が行われ、翌年三月「阿武隈川本宮左岸地区治水対策と一体となったまちづくりへの提言」がまとめられ、事業の第一歩が開始された。

左岸築堤事業が進む中、令和元年十月、東日本台風により阿武隈川流域全体で戦後最大の記録的な降雨にみまわれ、本市は再び甚大な洪水被害を被った。

その後、国は阿武隈川緊急治水対策プロジェクトにより、流域全体における総合的な対策を開始し、本宮地区では築堤工事の加速化と河道掘削による水位低下対策が行われ、着工から十三年の年月をかけ、令和三年六月に念願であった左右兩岸の築堤が完成を迎えた。

これを後世へ伝えるため、この記念碑を建立する。

令和四年三月吉日

本宮市長

高松

義行